

事例 1

『仕事しかない男』

恋愛を求める女』

発表者 グループホーム和が家 (素人)介護員 林 裕一

なかぞらに太陽が白く燃えていた。熱気のゆらめく青みのうすい空の東南の方角に、見つめればめまいのするほど、巨大な入道雲が塔をつみあげている。

敷地から鷹栖の田畠を見下ろせば、新緑の隙間からわずかに出ていた土色が、いまではほとんど消えていた。

旭川市春光台地区。グループホーム和が家は平成16年にオープンして、明日で二周年をむかえます。

入居者 18名(男性2名、女性16名)、スタッフ 20名(男性3名、女性17名)で暮らしています。

入居者 平均年齢 83歳(最低 68歳～最高 90歳) 平均介護度2.4

スタッフ 平均年齢 41歳 転職率(退職者 / 延べ採用者数) 16.7%



敷地内の駐車場は、入居者さんの散歩、日向ぼっこ、イベントなどに利用されます。芝生の庭には、野菜畑、花壇、ベンチのほか、うさぎやカモが飼われており、みんなの心を和ませます。

入居者さんと家族、そして私たちスタッフはみんな「和が家」が大好きです。

延床面積 207坪

定 員 18名(2ユニット)



庭の花壇、芝生

石作りのテーブルと施設長手作りベンチ



いつも玄関は開け放して、近所の人が入ってきます。このまえも駐車場で遊んでいた小学生がトイレを借りに駆け込んできました。

入居者さんだって同じ。ふらつきながらも「自分の意思」で外へ出かけていきます。ウサギのために草を摘み、たくさん抱えて上げています。「運動」と自分に目的を持ち、駐車場を3周してくる方もいます。洗濯物を干したり、取り込んだり。野菜畑の草取りを「むかしは百姓しててねえ」と笑いながら、日課とする人。

ゆっくりと、ゆったりと、自分たちのペースで過ごしています。

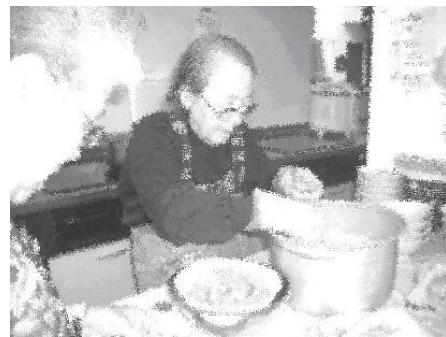


鷹栖の田園風景を見下ろせる

毎日の食事は、その日担当のスタッフが作ります。
 「さんざん父さんのごはんを作ってきたから、ここにいたらラクしますよ」なんて言って。
 けれど、何でもやってくれます。



もやしのひげとり



いなり寿司つくり

家庭の日常に「レクリエーション」なんてありません。
 いっぱいからげて、なにかをすることは効率がいいですね。少ないスタッフもカバーできます。しかし、それでいいんでしょうか？
 ひとり、ひとりの生活はそれぞれのペースですすみます。



マージャン



囲碁

お風呂は毎日、いつでも入れます。決して裸にタオルをかけられ、廊下で待たされません。
 だから、スタッフはいつも着替えを持って「和が家」に帰ってきます。



グループホーム 和が家

さて、ここからがこのお話のはじまり。



大村ちえこさん（仮名） 86歳

三男四女の子供をもうけ、口数は少ないですがよく働くお母さんでした。
体も丈夫で、ハツラツとした姿はみんなの「ばあちゃん」として愛されていたはずでした。
しかし、気性が激しいためか度々家族とトラブルを起こしては、子供たちの家をでて、違う子供の家にやっかいになりました。

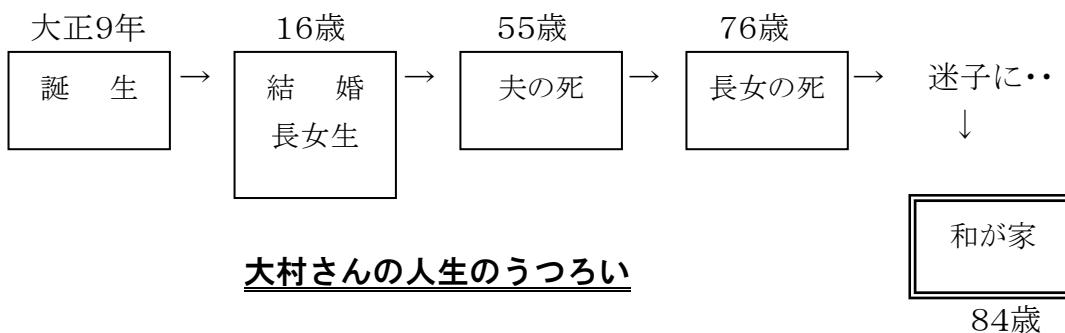
今から10年まえ…

最愛の長女を亡くしたころ、その後周囲の家族にとって不可解で困ったことをするようになりました。

『家族が物をかくした』と騒ぎたてたり、ゴミステーションから使えそうな物を拾ってきて、押入れにしまい込むようになりました。

もともと買い物が好きで、近所のスーパーに、1日に2~3回行っていました。ある時、ガスコンロの火を消し忘れ外出してしまい、そのまま迷子になってしまった。

夫は既に他界しており（昭和50年）、毎日水とご飯をお供えして手を合わせていたそうです。



「和が家」に来たころは、やはり外出して迷子になってしまいました。
警察にご厄介になることもありました。

検 証 1

○ 月△日 晴れ

「仏壇にお供えするお菓子が、な~んもないんだ。買い物に行きたいんだけど‥‥と、いつものように外出を無心します。

今日は朝から受診する入居者さんが多く、スタッフの手が足りません。毎日毎日でかけてい
るのに、まだ行きたいのか？なんとか諦めさせるか‥‥それとも、誰か違うスタッフに頼んでく
れないものか‥‥ついつい口から出る言葉は『ちょっと待っててえ～‥‥』

スタッフの目を盗み、素早く玄関から出て行く大村さん。時折、後ろを振り返りながらチョ
コチョコと足を速めていきます。『和が家』の周辺は閑静な住宅街が広がっています。庭に
は、そのお宅の奥さんの趣味でしょうか？たくさんの花々が咲いています。なんの躊躇い
もなくその花を摘み、上機嫌で歩いていきます。

後ろからはスタッフが、物陰から覗きながら下手な尾行をつづけています。



『ああ、もうこれ以上ついていけない』 スタッフの嘆きです。

ここで、選択に迫られます。

- ① 声をかけて、「和が家」に戻ってもらう。
- ② 無視して「勝手にしろ！」と捨てゼリフ。大村さんをおいてスタッフ一人で帰る。
- ③ 尾行をつづける。

スタッフが一人、ホームの外へ出てしまうと、残っているスタッフに大きな負担を与えてしま
います。手薄になった「和が家」ではどんなハプニングが起こるか‥‥『戻るのが遅いと、みん
なにサボっていると思われるかなあ』なんて変な気になり、心苦しくなります。

また、声をかけても容易には戻っていただけません。下手をしたら逆ギレして「こんなところに
いたくない。ワチを閉じ込めておく気か！」なんてことになりかねません。

この時、スタッフは「声かけ」に打って出ました。しかし、あえなく撃沈。怒らてしまい、大村
さんは一人で遠くに行ってしまいました。まもなく姿が見えなくなりました。

結局、ほかのスタッフの応援を呼びに行っている間に「迷子」となり、車で捜索。泣いている大
村さんを見つけたのは数十分後のことでした。

見つけたスタッフに大村さんは「いや～助かった。道に迷っちゃって、どうしようかと思った」と
興奮して話をしたそうです。

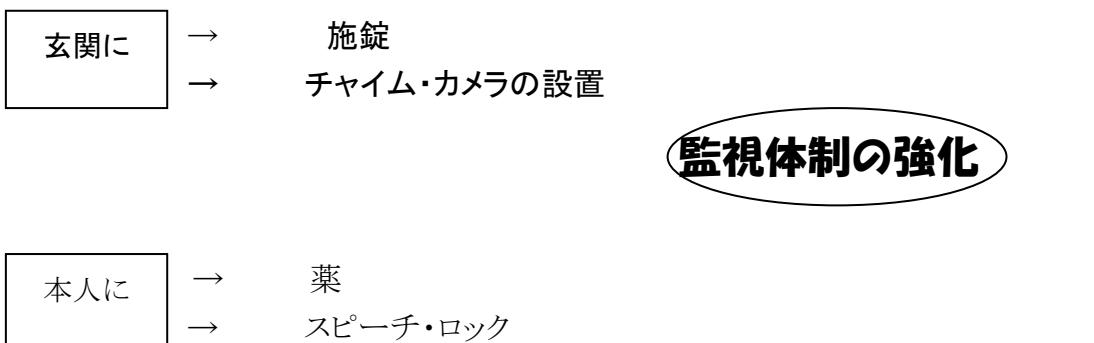
問題提起**☆スタッフの本音・・****迷子 = 困ったひと**

イコール

入居者さんが1人でも、外に出ると…

- 1、対応するスタッフ(見守り)のためホーム内が手薄となる。
- 2、転倒・交通事故などのリスクが大きくなる。
- 3、他の入居者さんも、外に行きたくなる。つらて出る。

など

☆ホームの対応・・

ここでみなさんならどうするでしょうか？

動きに制限をつけ、監視します。玄関にチャイムをつけたり、昼間でもカギをかけたりして。

それとも薬で「落ち着いて」もらいますか？

外へ出て行ったら、つかさず「大村さん！どこにいくのお～！？」と大声で質問するフリして引き止めていませんか？

検 証 2

◇月◎日 曇り

春になり、心がウキウキしてきました。

そんなある日「和が家」に新しい住人が「引っ越して」きました。みなさん、直接話しかけません。遠巻きに観察しはじめます。男性です。このユニットでは女性ばかりだったので、心が騒ぎ出します。コソコソとお隣同士で「あの人どこの人？」など視線を彼に照射します。

背が高く、しかし首から脊髄に沿ってカーブを描いたシルエット。髪を短く丸刈りにして、メガネをかけた風貌は温厚そうに見え、老人特有のスローな動きがさらに周囲の人たちに安心感を与えました。どことなく見覚えのあるようで、なぜかしら馴染みのあるこの男性。暑い日もユニクロで買ったフリースを着て、腰には黒のウエストポーチ巻きつけ、長い足には細身のジヤージ。口数は少なく、声のトーンは常に低く、決して荒げて何かを要求しない。風格と徳がにじみ出ているようで、いつしかみなさんから「お上人さま」と言われるようになりました。



←「お上人さま」

ところで大村さんと言えば…

新しく入ってきたこの「お上人さま」を見るなり、遠い記憶を遡るような目つきをして言いました。

「ワチの父さんだ。なんでこんなトコに来たんだべ・・・」

大変なことになりました。他の入居者さんは、みなさん受け入れたのに、大村さんだけは大いに戸惑いました。彼に興味というか、疑いというか、複雑な想いを抱きながら、過去の記憶と照合しようと苦闘する毎日。甲斐甲斐しく身のまわりの世話をしたと思えば、姿を見ると隠れてみて彼を非難してみたり。

「父さん」の意味には何通りかあって、まず本当の父親か育ての父親（自分は生みの親との縁が薄いと感じているようだ）。または「夫」。日によってはコロコロと変化していました。

この頃からでしょうか…男性を見ると『昔の彼氏』と思うようになったのは。

当然、スタッフに対してもそうです。ニヤニヤして抱きついたりします。また、女性スタッフが男性スタッフや「お上人さま」に話をしているだけで、ヤキモチを焼いて機嫌が悪くなる。エスカレートしていくと(きれいな)女性スタッフを見ただけで怒り出す。ご飯も食べない、部屋からではない。まわりの人に、その女性スタッフの悪口を言う。あげくのはてに外に飛び出してしまい、また迷子になる。同時に「自分の家に帰る」という理由で、ますます外出が多くなっていきました。

問題提起

☆スタッフの本音・・

不 穏 = 困ったひと

イコール

入居者が不穏になると…

- 1、他の入居者さんやスタッフを攻撃。みんな不穏になる。
- 2、スタッフの疲労が倍増する。
- 3、「解決」のための関わり方を探そうとして壁にぶつかる。

など

☆ホームの対応・・

物理的に

- トラブルの原因になる入居者さんから遠ざける
- 退居・入院

職場の雰囲気が悪化

本人に

- 薬
- スピーチ・ロック
- 相手にしない

ここで皆さんならどうするでしょうか？

一言で「不穏」と処理され、日誌に記入しても何か自分たちに無力さを感じ辛くなってしまいます。「介護疲れ」